

令和5年度 学校評価一覧

本年度の 重点目標	① ICT機器の活用を進めるなど、一人一人に応じた教育を充実する。 ② 仕事の効率化や業務内容の改善を図る。		
担当	重点目標	具体的方策	最終評価
総務部	・「SDGs（Sustainable Development Goals[持続可能な開発目標]）」を意識して、学校環境の整備に取り組む。	・「SDGs」の目標に対して、昨年度からの取組の内容を精選し、新たな取組を加え、校内掲示や呼びかけなどを通して、積極的にかつ具体的に情報発信し、児童生徒・保護者、教職員が協力・協調して、学習・生活しやすい学校・教室環境の整備を進める。	・児童生徒向けには、節水、節電について、職員には節約について意識してもらえるようにイラストを活用した掲示物を作成した。職員にはグループウェアや終礼で職員室のプリンターや印刷室の使用状況等を報告し、注意してもらいたい内容を伝えるようにした。全体として、ミสปリント等は少しずつ減ってきているように思われるが、今後も、イラスト等を活用しながら、児童生徒、職員ともに、環境に対する意識を高められるように工夫していきたい。 (達成度70%)
教務部	・臨機応変に感染症対策を行いつつ、コロナ禍で得た技術を用いながら教育活動の充実を図る。 ・業務改善を行い、限られた時間を有効に活用できるようにする。	・行事や授業において、従来の実施方法に戻しつつも、新型コロナウイルス感染症対応で有効であったICT機器を用いた支援を融合させて、より児童生徒が充実感や達成感を得られるようにする。 ・業務全般において、必要なものを精選し、教材準備などに時間を使えるようにする。	・行事に関して、オンラインを用いながら体育館に集まる人数を減らすことで、儀式で校歌を斉唱したり、いなざわフェスティバルでオープニング、エンディングイベントを全校一斉に行ったりするなど、従来の学習活動を実施することができた。オンラインでの参加により落ち着いて儀式に参加できる一方、厳かな雰囲気を感じることができる学習機会が減ってしまうということも考えられるため、児童生徒がより良い学習を行うことができるように今後も実施方法を検討していきたい。 ・コロナ禍で今まで実施できていなかった水泳や調理実習などの学習に関しては、感染状況を考慮しながら実施することができた。来年度以降も実施回数などを適切に設定して実施していきたい。 (達成度85%) ・2学期始めの個別懇談を7月末に実施することで、9月の学期始めの多忙、教育実習との重なりを解消することができ、職員の負担を軽減することができた。 ・教務部の業務としては、情報が重複している保護者配付プリントを無くしたり、行事の案内文書の送り先を精選したりするなどして業務改善を図ることができた。また、会議を計画的に行うことで回数を減らすこともでき、その分の時間を教材作成や、授業準備時間に充てることができた。 (達成度90%)

生徒指導部	- 交通安全指導や防災教育について、児童生徒が分かりやすい指導をする。 - 業務の精選や効率化を図る。	- 視覚的に分かりやすい教材を作成し、指導に生かす。 - 教材を共有したり、有効なインターネットコンテンツをまとめたりして、サーバーに保管し、誰でも活用できるようにする。 - 複数人で業務に取り組み、業務の偏りが生じないようにする。 - 会議がスムーズに進むように、事前に資料確認をしたり、打合せをしたりするようにする。	- 交通安全に関する教材は警察や市の担当者に相談し、児童生徒にとって分かりやすい教材を用意することができた。インターネットコンテンツも分かりやすいものをサーバー上に保存することができ、交通安全教室や授業で生かすことができた。（達成度80%） - 業務に偏りがないように担当者を増やしたり、部をまたいで担当者を決めたりすることができた。しかし、バスの代替添乗を中心に特定の職員に集中した。（達成度50%） - 校務部会については提案締切りを決め、資料を確認の上会議に参加するようにしたが、締切りや提案自体を失念したため、事前の資料確認等ができないことがあった。会議のスケジュールや提案事項の更なる確認が必要である。（達成度50%）
進路指導部	- 保護者説明用資料の充実を図る。 - 進路関係表簿の書式の見直しと改訂。特に実習の評価表の書式と評価基準を見直し、適切な評価に結び付けられるようにする。	- 学級担任と保護者の間で適切な進路情報の交換や相談が行えるように、提供内容の精選と充実を図る。 - 進路関係表簿を見直し、効率的な活用ができるように書式の改定に取り組む。 - 生徒の実習で実態に則した評価表とすることができるよう、実習ノートや実習評価表の体裁や評価基準を検討して見直していく。	「進路の手引き」を年度更新して高等部1年保護者へ配布した。保護者説明会時に、パワーポイントを使って説明を進め、配布資料を該当学年担任と共有することで、進路指導の充実が図れた。（達成度70%） - 進路関係表簿の書式の見直しを行い、入力業務の軽減や書式の統一を進めることができた。 - 高等部生徒の校内実習での評価の改善に取り組み、実習成果を適切に評価できるように評価基準を見直し、Ⅲ期実習で試行した。評価表の体裁も見直し、分かりやすい体裁に改善できた。（達成度80%）
保健体育部	- 一人一人に応じた保健指導や食育指導のより一層の充実を図る。 - 学校安全のより一層の充実を図る。 - 業務内容を見直すことで効率化を図り、指導の充実に充てる。	- 個々の実態を把握し、関係者と連携を図りながら進める。 - 肥満指導や食に関する個別指導などICT機器や補助教材などを活用し、さらなる充実を図る。 - 疾病予防や事故発生時の対応などの安全管理の充実を目指す。 - 校務支援システムを有効に活用し、連絡体制や業務の効率化を図る。	- 個に応じて、運動や食事の指導などを行いながらICT機器や体重記録票を活用して、体重を記録することでの体重管理の方法も指導を進めることができた。また、関係者と相談する機会を進んで設定することで連携しながら保健指導の充実を図ることができた。（達成度80%） - 新型コロナウイルス感染症の5類移行への校内の対応についての見直しや、安全点検や日常清掃などを定期で実施し、環境整備に努めるよう周知した。事故発生時には、全体に周知し、情報共有ができた。今後も危機管理意識を高められるよう、状況把握や対応の見直しなど保健管理や安全管理の充実を進めていく。（達成度90%） - 業務内容の連絡・相談について、校務支援ソフトを活用しながら進め

			ることで効率よく運営ができた。業務内容の改善についても引き続き検討していく。（達成度 80%）
教育支援部	・児童生徒及び教職員への校内支援の充実を図る。 ・地域の関係機関と連携を図り、特別支援教育に関する情報を提供する。	・現職研修やケース検討会などを行い、校内支援を充実させる。 ・支援部日より、支援部グッズの提示方法を工夫し、周知を図る。 ・ホームページで本校の取組を紹介し、特別支援教育に関する情報を提供する。 ・巡回、指導検討会のための事例検討会を行い、ニーズに応じた訪問支援を行う。	・月 1 回程度高等部のケース検討会やコーディネーター会を実施し、校内の情報共有を図れた。ケース検討会については、各部で必要に応じて実施できることを周知していくとともに、ケースの取り上げ方や会の進め方についてはより良い形を検討していきたい。（達成度 80%） ・ホームページ掲載や研修を通して周知を図ることができた。より活用しやすいように工夫を重ねていきたい。（達成度 70%） ・夏季研修の様子や本校の ICT を使った取組みについて情報を発信することができた。（達成度 90%） ・事例検討会を行ったり、研修資料を回覧したりすることでニーズに応えられるように資質向上に努めることができた。今後も職員の資質向上に向けた取組みを行っていききたい。（達成度 80%）
情報教育部	・情報機器およびネットワーク上のデータの安全な運用に努める。 ・ICT 機器を効果的に活用した実践の充実を図る。	・情報の重要度に応じて適切な場所に意識して情報を保存できるようにフォルダ名やファイリングを工夫し、職員に周知する。 ・教職員向けに ICT 機器を活用した実践の紹介や研修会を開き、ICT 機器活用ができるようにする。 ・児童生徒が主体的に ICT 機器を活用することができるようになる。	・個人情報を含む書類やデータを重要度に応じて適切な場所に意識して保存できるように、校内共有フォルダのフォルダ名に（level A）、（level B・C）と付記し、適切なフォルダにデータが格納され、混乱は少なかった。また、昨年に引き続き各校務分掌主任に依頼し、各校務で取り扱う個人情報を含むデータを重要度 A・B・C に分類し記録する作業を依頼し、重要データの管理をすすめた。（達成度 90%） ・夏季現職研修では、児童生徒用タブレットや教員用タブレットを使用し、教科に関連するアプリの使い方や授業実践の工夫紹介など 8 講座を行ったところ、アプリの使い方や ICT 教材の作り方の工夫、児童生徒に合わせた設定など、様々な質問がとて増えた。（達成度 80%） ・児童生徒の興味・関心や障害特性による難しさがある活動に合わせて、上記研修会等で紹介したアプリ以外にも、インストール希望のアプリ相談や機器を使用した実践相談が多くなってきている。（達成度 80%）
図書部	・図書室の環境の充実を図る。	・図書室の利用方法や図書の紹介について改善・充実を	・図書室オリエンテーションで使用するシールを各クラスに配付した

	・児童生徒の読書活動を推進する。	進め、児童生徒や職員が安全に利用できるように図書室環境を整える。 ・図書委員会活動や読書週間等の取組を通して、ＩＣＴ機器を活用した読書活動及び学習活動の充実を目指す。	ことで、図書室利用につながったとの声があった。図書室内外の掲示や、としょだより等で、新しく入った本やおすすめの本を周知していく。 ・人気のある本を手に取りやすい高さの棚に並べたり、絵本や読み物の棚の差し込み表示を増やしたりした。絵本の著者名を示した差し込み表示があることで、図書を棚に戻しやすくなった。今後も児童生徒が興味を持って自ら本に触れられるよう書架の工夫を行っていく。（達成度 80％） ・図書委員会の活動として、プレゼンテーションソフトを活用して図書の紹介を行ったり、図書室の利用方法についての紹介動画を制作したりした。図書委員会の活動を図書室内の掲示等でさらに周知できるとよい。 ・読書週間では、図書室内に職員のお勧め本のコーナーを特設したり、図書室を利用した児童生徒に折り紙で制作したしおりを配付したりしたことで、児童生徒の期間内の来室につながった。図書をデータ化し、タブレットや大型テレビで閲覧できるようにしたが、今後は、図書のデータ化が難しくなることが予想されるため、書画カメラの活用など著作権に配慮なく使用できる機器の使用を提案、促していけるとよい。（達成度 70％）
研修部	・職員の専門性の向上を図る。	・研修では、職員の興味や関心、必要性の高い内容を選んで計画する。 ・研究では、キャリア教育で育成すべき4つの能力に対しての各部の目標について検討する。	・年間5回の全校研修を計画し、1学期に「情報モラル」「救護・救急法」「進路」、2学期に、「人権」「教材・教具展」を実施した。 ・「救護・救急法」の研修では、消防署の方を講師に、全職員が実技研修を行い、繰り返し心肺蘇生法を練習したり、参考になる話を聞いたりした。 ・夏季現職研修を夏季休業中に実施した。学校歯科医や栄養教諭の講話、自作VOCA作り、教材・教具の活用方法、行動問題への対応、デイサービスの見学など様々な内容で18の講座を設けた。そのうち、授業に生かせるようICT機器の研修を5講座設定した。 ・どの研修も、他分掌と協力して、必要な内容を検討して実施した。 ・自由参加ではあるが、多くの職員が参加し、専門性の向上を図る機会とした。（達成度 80％） ・年間5回全校職員で研究を行った。 ・初めに、進路指導部主任による講習を行い、キャリア教育で育成すべき4つの能力について全職員で共

			通の認識を持った。 ・現在行っている教育活動をキャリア教育の視点で見直し、教育活動がどの能力と関わっているのかを話し合った。 ・各学年段階で身に付けてほしい能力やそれらの能力を育むための教育活動について様々な意見が出された。それらを踏まえて、来年度には本校のキャリア教育の目標について検討していきたい。 (達成度 70%)
自立活動部	・自立活動に関する情報提供を進める。 ・自立活動室や準備室を整備し安全で活用しやすい環境を整える。	・自立活動に関する研修会、相談会を実施する。 ・学校HPに自立活動に関する参考資料を掲載して校内や地域へ定期的に情報を発信していく。 ・自立活動の教材・教具データ資料を充実させる。 ・自立活動室を使用する際の留意事項をまとめたり、教材・教具の紹介や使用方法を周知したりする。	・夏季休業中に外部専門家を招き、本校職員を対象に研修会を実施した。自立活動部職員や学年職員と連携し、相談会を実施し、課題や教材・教具等の見直しや必要な情報提供を行った。来年度も継続して実施していきたい。 (達成度 90%) ・12月に研修部と連携し、教材・教具展示会を実施した。その教材データを集約し、データ資料の更新をした。おすすめ教材については、HPに各項目1つずつ掲載した。1月にHPを更新した。 (達成度 90%) ・月に1回程度、書籍や教材・教具、新規購入した教材・教具と使用方法などを紹介し、授業等で活用できるようにした。 (達成度 90%)